



ひらした
平下
(明和)
なおき
尚己



中学校の部活動について

問 部活動がなくなることはあるか。

教育長 生徒が自身の興味関心に応じて部活動を自由に選択し、多くの仲間と取り組む、持続可能な部活動のあり方を検討しているので部活動がなくなることはない。

問 部活動のあり方検討委員会の進捗状況は。

教育長 令和5年度は3回実施。来年度、モデル部の具体的な方法を検討し2学期以降試行。

問 小学校と中学校が連携し、小学校教員が部活動の指導にあたることはいかがか。

教育長 指導者の確保は大きな課題なので教職員からの希望があれば可能と考える。

問 市役所の組織の中に部活動課なるものを新設し、その新設課職員が部活動の指導にあたってはいかがか。

教育長 部活動課を新設すること、またその課職員が指導に出向くことは考えていない。部活動のあり方検討委員会では、多くの指導者を確保するために学校の教育活動に理解があり、学校部活動ガイドラインに則り、指導する様々な職種の方々に協力を得られる環境整備を整えていく方法について検討していただきたい。

生活道路における歩道について

問 歩道整備が困難な箇所についての考えは。

部長 用地の確保が難しく歩道整備が困難な場合はソフト面の対策や注意喚起の路面表示、側溝に蓋を設置したり外側線の位置を調整し歩行空間である路側帯の幅を確保するなど、既存の道路幅の中で出来る対応で安全確保に努める。

問 通学路や未就学児が集団で日常的に移動する経路についての考え方は。

部長 要望や合同点検を経て行い、整備には連続性が重要となることから、しっかりと精査し事業化する必要がある。スクールゾーンやキッズゾーンの設定等のソフト対策が必要である。



なかの
中野
(明和)
けんたろう
健太郎



J-クレジットの活用による森林整備について

※ J-クレジット…森林保護や植林、省エネルギー設備の導入などで生じた温室効果ガスの排出削減効果を「クレジット（排出権）」として発行し、排出削減量を売買する国の制度

問 市内の広大な森林の潜在能力を最大限発揮して持続可能な森林経営を実現する取組が重要だ。民間活力を導入して市有林を生かす、J-クレジット創出に関する連携協定を提案する。

部長 取組事例等の調査研究を行い、民間事業者と課題解決について協議しながら、クレジット創出の事前調査を実施したい。

問 調査の時期と方向づけまでの日程は。

部長 喫緊の問題。スピード感を持って取り組んでいきたい。

意見 富士宮市のゼロカーボン（温室効果ガス

の実質的な排出量をゼロにすること）はまだ道半ば。産業経済との観点からも幅広く民間とつなぎ合わせた政策を望む。

带状疱疹ワクチンの接種費用助成について

問 市内の带状疱疹の罹患の状況は。

部長 推計で年間610人程度。

問 带状疱疹の発症と重篤化を予防するためにはワクチン接種が効果的だが、高額負担であることから接種を躊躇する市民もいる。ワクチン接種費用の助成の考えはあるか。

部長 ワクチンの効果、安全面等、国の定期接種化の考え方と動きを確認する必要がある。

市長 慎重には慎重を期しているが、気持ちの上では早く何とかしなければと思っている。

問 地域医療の観点から、富士宮市医師会と医療ニーズの意見交換をしているか。

部長 している。コロナ禍には医師会のご協力でワクチン接種、感染症対策に取り組むことができた。非常に良好な関係を築けているので、さらに密度の濃い関係を継続していきたい。